

平成 13 年度
生物多様性情報データベース構築
フィジビリティ・スタディ (FS) 報告書

報告日：2002年3月4日

グループ名： シーボルト収集動植物標本データベース

グループ代表者氏名： 上田恭一郎

1. 構築検討したデータベースについて

データベースの概要及び特徴	シーボルトと彼の助手ビュルゲルが江戸末期（1823-1835）に日本で収集し、現在オランダのライデン市にある国立自然史博物館、国立植物標本館に主に収蔵されている動植物標本 20,200 点（動物 7,700 点、植物 12,500 点）のデータベース。標本とラベルの画像、標本のテキストデータから成る。現存する日本産動植物標本としては最も古いものが多く、分類学的に重要な模式標本も多く含まれている。
類似のデータベース	オランダの国立植物標本館が作成した植物画像データベース。この中にはシーボルト標本も含まれている。
生物分野	動物：海綿動物、腔腸動物、腕足類、棘皮動物、軟体動物、甲殻類、昆虫類、魚類、鳥類、哺乳類 植物：シダ植物、蘚苔類、地衣類、海藻類、顕花植物

2. データ源およびデータの現在の状況について

（FS を踏まえて以下の項目について記述ください。）

データ源	<p>1) H13 年度データ取得可能なデータ源（件数など）： 標本及びラベルスライド：26,050 枚</p> <p>2) H14 年度データ取得が可能なデータ源の見込み（件数など）： 標本及びラベルスライド：1,000 枚 （フンボルト大学にどれくらいのシーボルト標本が保存されているか不明なために概数を挙げておく。）</p> <p>3) H15 年度以降のデータ取得が可能なデータ源の見込み（件数など）： 標本及びラベルスライド：1,000 枚 （フンボルト大学、オックスフォード大学にどれくらいのシーボルト標本が保存されているか不明なために概数を挙げておく。）</p>
データの発生・収集場所	<p>オランダライデン市国立自然史博物館・国立植物標本館：26050 枚（既存スライド）</p> <p>ドイツミュンヘン市バイエルン州立植物標本館：調査予定</p> <p>ドイツベルリン市フンボルト大学自然史博物館：調査予定</p>

	英国オックスフォード大学博物館：調査予定
他機関の場合の連携協力について	オランダライデン市国立自然史博物館・国立植物標本館およびドイツミュンヘン市バイエルン州立植物標本館との協力でデータを収集した。現在も収集中である。フンボルト、オックスフォード大学とはこれから協議予定。
データフォーマット	標本写真：それぞれの標本の写真（図形・画像） 図：原記載の図、標本に附随した図（図形・画像） 学名：標本の学名（文字） 和名：標本の和名（文字） 解説：標本の解説？シノニムリスト、標本の保存場所、整理番号、由来等（文字）
デジタル化されたデータについて	（データ源からデジタル化されたデータについて記述ください。） 1）現在保有するデータ総件数と保存媒体（H13年度未見込み） 1,000件：MO及びハードディスク 2）平成14年度の見込み 2,000件：MO及びハードディスク 3）平成15年度以降の見込み 17,000件：MO、ハードディスク、CD及びサーバー
データ・ベースの実現方式とデータのクオリティ	各種の同定についてはオランダ国立自然史博物館及び国立植物標本館の担当キュレーター、及び国内の各分野の分類学専門家のチェックを受けている。また問題のある種については、国内外の専門家にさらに同定依頼を行う。 シーボルト関連の包括的な事項については、オランダ国立自然史博物館名誉学芸員 L. B. Holthuis 教授の校閲を受けている。

3. FS で得たデータベース化する際の知見について

データ・フォーマットやデータの加工内容などについて	(検討したデータの変換、標準化、分割、索引づけ、等技術的に特記することがあれば記述して下さい。)
---------------------------	--

4. その他

データベースを公開する上での問題点の解決について	<p>オランダ国立自然史博物館、国立植物標本館とは現在本データベースに山口、上田等が撮影したスライドの使用許可を協議中。かねてから委員会で指摘されたオランダ国立植物標本館が作成した標本の CD はメンバーの山口が標本選択その他に現地のスタッフと関わって作成している。</p> <p>14 年度には 13 年度で作成したデモ版を上田、山口が持参して現地で実際に交渉を行う予定である。</p>
その他	<p>(FS の成果により、本報告でアピールしたいことなどを記述して下さい。)</p> <p>別添パワーポイント書類参照。</p>

5. 確立できた推進体制(具体的な参加メンバーをリストアップしてください)

開発責任者	<p>氏名：上田恭一郎 所属：北九州市立自然史博物館 役職：主幹(昆虫担当学芸員)</p>
-------	---

研究協力者	<p>山口隆男 所属：熊本大学沿岸域環境科学教育センター 役職：教授</p>
	<p>武石全慈 所属：北九州市立自然史博物館 役職：鳥類・爬虫類担当学芸員</p>
	<p>沢田佳久 所属：兵庫県立人と自然の博物館 役職：昆虫担当学芸員</p>
	<p>馬場敬次 所属：熊本大学教育学部 役職：教授</p>
	<p>藤井伸二 所属：大阪市立自然史博物館 役職：植物担当学芸員</p>

6 . FS 後の推進スケジュール（案）

（今後のスケジュール案と平成14年度見込みについて記述して下さい。）

（例）

	H 14	H 15	H 16	H 17
1.データベース基本設計	■			
2.データベース詳細設計		■		
3.情報機器の導入		■	■	■
4.データベースプログラミング		■	■	
5.データ作成・入力	■	■	■	■
6.運用試験				■
7.試験公開				■
8.公開				■